

2017年度

公益財団法人 高柳健次郎財団

高柳健次郎賞・研究奨励賞・科学放送高柳賞



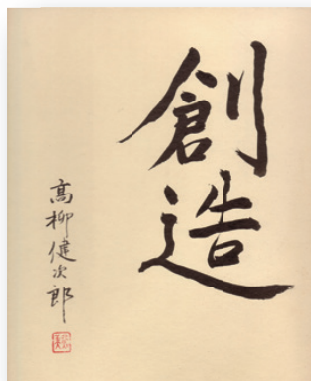
恒に夢を持つこと
志をすてず”
難きにつく

昭和38年1月3日

高柳健次郎



高柳健次郎 書齋にて

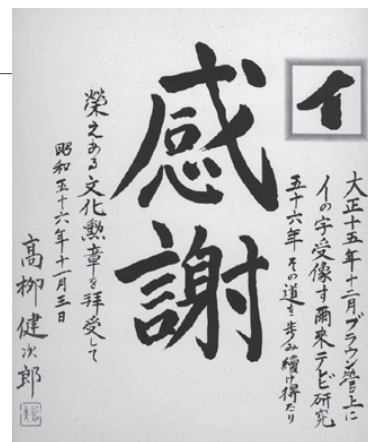


よい科学者、
よい技術者である
まことによい人間であれ
高柳健次郎

公益財団法人 高柳健次郎財団

設立

故高柳健次郎氏が文化勲章の授章に際して、「決して私一人の力で成しえたことではありません」と謙虚に述べ、「初期の研究過程において、研究費の不足に困ったとき助けられた有難さを今も忘れることがない」と感謝の気持ちを表している。そして、これまでに多くの方々から受けたご恩に報い、併せてわが国の電子科学技術の振興に些かなりとも貢献できればと念願し、設立されました。



高柳健次郎の功績 「世界で初めてブラウン管による電子表示に成功」

高柳健次郎博士は、電子式テレビジョンの実現を目指して研究し、1926年12月25日に世界で初めてブラウン管を用いて電子映像表示に成功した。

当時、イギリスでは、1925年にベアードが送受信ともニポーの回転円板を用る機械式テレビジョンの実験に成功、翌年には機械式テレビジョンの公開実験を行っていた。他方、米国、欧州各国などでもテレビジョンの実現に向けた様々な試みが行われていた。

高柳は、機械式では精細な画像表示ができないと判断して、映像を電子的に撮像・表示する電子式テレビジョン技術の開拓に挑戦し、浜松高等工業学校で研究を進めた。1924年12月に電子表示のために独自に開拓した熱陰極ブラウン管の試作を芝浦電気(株)(現東芝)に依頼した。撮像はニポーの円盤で画像を走査し、高速電子回路を開拓して電子映像を作った。1926年12月25日、雲母板上に書いた「イ」の字を、世界で初めてブラウン管上に電子的に表示することに成功した。時あたかも大正天皇が崩御され、その号外新聞発刊の鈴の音を聞きながらであった。こうして、世界初の電子式テレビジョン受像器を実現、それはまた、世界初の電子映像表示装置(ディスプレイ)の達成であった。高柳は1927年には真空管式の撮像管の特許出願を行うなど、その後は電子式テレビジョン放送の実現・発展に貢献した。

他方、アメリカでは、1927年、フィロ・フランスワースが電子式テレビジョンの特許を申請し、1933年にツボルキンがアイコノスコープ(撮像管)を発明し、受像には高柳が達成したブラウン管方式が用いられて、電子式テレビジョンが開拓されていった。

現在、高柳が開拓した電子映像ディスプレイは、テレビジョンの映像表示のみならず、電子機器の発展につれて「人間と機械の対話装置」へと発展し、パソコンやスマートフォンなどの情報通信端末のキーテクノロジーに進化し、現在の情報通信技術社会の発展を支えている。



「イ」の字の表示に用いられたブラウン管

● 目的・事業

当法人は、電子科学技術に関する独創的な研究開発に対し研究助成を行い、また優れた研究業績者を表彰することにより、わが国の科学技術の振興に寄与し、豊かな社会の創造に貢献することを目的としています。その目的を達成するため、下記の事業を行っています。



理事長 末松安晴

〈 高柳健次郎賞 〉

電子科学技術に関する優れた研究により、わが国のこの分野の振興並びに産業の発展に貢献された方々の功績に報い、電子科学技術の更なる発展とその啓蒙に寄与することを目的とした賞です。

- 高柳健次郎賞 1件 表彰盾並びに記念のメダルを贈呈
- 高柳健次郎業績賞 2件 表彰盾並びに副賞として賞金を贈呈

〈 研究奨励賞 〉

将来の発展が期待される独創的な研究に取り組む若い研究者に助成し、わが国の電子科学技術の振興並びに産業の発展に寄与することを目的としています。

- 研究奨励賞 3名～5名 表彰盾並びに副賞として研究助成金を贈呈

〈 科学放送高柳賞 〉

科学技術の振興とその知識の向上に役立つ優れた科学放送番組を奨励し、番組内容の向上に寄与することを目的とした賞です。優れた科学放送番組を放送した放送局を表彰しています。

- 最優秀賞 1件 表彰盾を贈呈
- 優秀賞 2件 表彰盾を贈呈

〈 未来技術フォーラム 〉

電子科学技術の分野で次世代の発展に寄与する最先端の技術や話題をテーマに、年3回開催しています。但し、本年度は休止いたします。

〈設立許可〉

- 1984年(昭和59年) 10月31日 内閣総理大臣・国務大臣科学技術長官より、民法第34条の規定に基づく公益法人として許可を受く。
- 2010年(平成22年) 3月29日 内閣総理大臣より、公益法人認定法第44条の規定に基づく公益財団法人として認定される。
- 2010年(平成22年) 4月 1日 公益財団法人高柳記念電子科学振興財団として法人登記。
- 2011年(平成23年) 5月19日 公益財団法人高柳記念財団へ名称変更。
- 2013年(平成25年) 6月 5日 公益財団法人高柳健次郎財団へ名称変更。

受賞発表

高柳健次郎賞

研究奨励賞

科学放送高柳賞

2017年度 高柳健次郎賞・研究奨励賞・科学放送高柳賞 受賞者

〈贈呈式〉2018年1月19日(金) アルカディア市ヶ谷 6F 阿蘇の間

高柳健次郎賞	<p>須崎 渉 氏</p> <p><研究業績> 半導体レーザーの黎明期における先駆的研究開発と産業化への貢献</p>
高柳健次郎 業績賞	<p>藤田 智成 氏</p> <p><研究業績> オープンソースソフトウェアの開発とグローバル展開及び実用化</p>
	<p>星沢 拓 氏、石井 紀彦 氏</p> <p><研究業績> 波面補償を用いたホログラム記録試作ドライブの開発</p>
研究奨励賞	<p>藤田 桂英 氏</p> <p><研究課題> 大規模合意形成支援のためのマルチエージェント自動交渉に関する研究</p>
	<p>平山 竜士 氏</p> <p><研究課題> 複数の指向性画像を記録・表示するポリウムディスプレイ</p>
	<p>森本 勝大 氏</p> <p><研究課題> オンデマンドバターニングによる制御回路不要な新規表示デバイス開発</p>
科学放送高柳賞 最優秀賞	<p>● 番組名 「カムイの鳥の軌跡～オオジシギ2つの物語～」</p> <p><放送局> 北海道テレビ放送株式会社</p>
科学放送高柳賞 優秀賞	<p>● 番組名 「ゴミノヒカリ～未来を照らすアルミゴミ発電～」</p> <p><放送局> 株式会社チューリップテレビ</p>
	<p>● 番組名 「村山斉の宇宙をめぐる大冒険」</p> <p><放送局> 日本放送協会</p>

高柳健次郎賞

「半導体レーザーの黎明期における 先駆的研究開発と産業化への貢献」



須崎 渉 氏（大阪電気通信大学 名誉教授 1938年生）

[学歴]	1961年 3月	京都大学 工学部電子工学科	卒業
	1975年 12月	東京工業大学	工学博士
[職歴]	1961年 4月	三菱電機株式会社	研究所 物理第3研究室
	1968年 1月	三菱電機株式会社	北伊丹製作所 半導体研究部 研究員
	1973年 10月	三菱電機株式会社	北伊丹製作所 電力半導体製造部 製造課長
	1975年 12月	三菱電機株式会社	中央研究所 光デバイスグループリーダー
	1984年 10月	三菱電機株式会社	LSI研究所 光デバイス開発部長
	1990年 10月	三菱電機株式会社	光マイクロ波デバイス研究所 試作部長
	1991年 8月	三菱電機株式会社	技術研修所 半導体デバイス教室室長
	1994年 4月	大阪電気通信大学	教授
	2009年 4月	大阪電気通信大学	名誉教授、その間2012年3月まで客員教授

● 主な受賞等

- 1980年度 電子情報通信学会 業績賞「単一モード低しきい値TJSレーザーダイオードの研究開発」
- 1984年 米国Laser Focus誌 業績賞「Laser Technical Achievement Award」
- 2004年度 大河内生産特賞「DVD記録用赤色高出力レーザーの開発と生産」
- 2015年度 大河内記念生産賞「光通信DFBレーザーの開発と生産技術の確立」
- 2017年 電子情報通信学会 マイルストーン「室温、連続単一モード発振のAlGaAs-GaAs系TJS型半導体レーザー」

〈主な業績内容〉

須崎 渉博士は、三菱電機株式会社（以下、三菱電機）において、光通信や情報記録用途等に実用化されている各種半導体レーザーの基礎となるホモ接合GaAsレーザーの研究開発に、この分野でも早期となる1963年5月から参入した。1967年には、世界で初めてAlを含むAl_xGa_{1-x}As系の3元混晶の結晶成長と赤色半導体レーザーの製作に成功した。同年ラスベガスで開催された第1回半導体レーザー国際会議で発表し、大きな反響を呼んだ。その時すでに、GaAsに格子整合するAlGaAs/GaAs二重ヘテロ接合レーザーに適用できると考えていた。その講演を聴いた林巖雄らベル研究所グループのGaAs/AlGaAs系二重ヘテロ構造による室温連続動作(1970年)に大きな影響を与えたことは想像に難くない。

その後、須崎博士は1968年より半導体レーザーの研究を一時中断して発光ダイオードの開発と生産に携わったが、1971年にはAlGaAs/GaAs半導体レーザーの研究に復帰した。1974年に自身の着想となるTJS(Transverse Junction Stripe)レーザーを同僚の協力により実現し、世界で初めて単一モード動作を達成した。この頃、須崎博士はこのレーザーを持って世界中の企業を廻り、マーケット拡大にも尽力した。

次いで、AlGaAs/GaAs系レーザーの寿命の短さを解決する壁の突破に挑戦し、GaAs中に存在する酸素を除去して結晶欠陥の発生を抑えることに気づき、AlGaAs/GaAsレーザーの長寿命化を実現して実用化の決定的な基礎を築いた。また、1982年にはこの頃登場した780nm帯CD用レーザーを製品化し、シャープ株式会社、ローム株式会社などと共に量産の一翼を担った。

これらの業績により、1980年度に電子情報通信学会より業績賞が与えられ、2017年には電子情報通信学会のマイルストーンに選定された。1984年には、単一モード動作レーザーの研究に対して米国の業界紙であるLaser Focus誌より、三菱電機に業績賞が与えられた。また、2015年度の大河内記念生産賞が三菱電機に与えられており、関係者は同博士が開いた道を高く評価している。

須崎博士は単一モード動作レーザーや長寿命化、更には高出力化に関し、世界の半導体レーザー開拓史の中で、我が国が先導した研究開発の一翼を担った代表的研究開発者の一人で、その流れは三菱電機のみならずこの分野に脈々と活かされている。

高柳健次郎業績賞

「オープンソースソフトウェアの開発と グローバル展開及び実用化」



藤田 智成 氏

(NTTソフトウェアイノベーションセンタ 分散処理基盤プロジェクト 主任研究員 1974年生)

[学 歴] 2000年 3月 早稲田大学 大学院理工学研究科 修士課程修了
[主な職歴] 2000年 4月 日本電信電話株式会社 入社 未来ねっと研究所
2008年 2月 日本電信電話株式会社 サイバーコミュニケーション総合研究所
サイバースペース研究所 研究主任
2011年 7月 日本電信電話株式会社 サイバーコミュニケーション総合研究所
サイバースペース研究所 主任研究員
2015年 4月 日本電信電話株式会社 サービスイノベーション総合研究所
ソフトウェアイノベーションセンタ 主任研究員(特別研究員)

● 主な受賞等

2014年10月 日本電信電話株式会社 社長表彰
2015年 2月 情報処理学会 ソフトウェアジャパンアワード

〈主な業績内容〉

藤田氏は、2000年からシステムソフトウェアのストレージ、及びネットワーク分野において、次々と萌芽的な技術に取り組み、開発したソフトウェアを誰でも自由に利用・改良可能なオープンソースソフトウェア(OSS)として公開し、様々な企業の技術者、学生などの世界中の開発者を巻き込みコミュニティを形成、開発を主導し、実用化してきた。ほとんどのOSSが広く普及せず、失敗していると言われるが、それらのソフトウェアは、NTTグループのサービスだけでなく、国際的に多くの企業で利用されている。また、米国のInternet2プロジェクトなど、数多くの学術プロジェクトでも利用されていることに加え、数千の論文で参照されるなど、学術界にも大きく貢献している。

2000年に、汎用のイーサネットハードウェアで動作するストレージエリアネットワーク技術(iSCSIプロトコル)の取り組みを開始、その成果をOSSとして公開し、開発を主導し、Linuxオペレーティングシステムの主要なディストリビューション(配布形態)に採用されるソフトウェアに成長させた。現在では、iSCSIプロトコルは代表的なストレージエリアネットワーク技術として広く利用されており、その普及に大きく貢献したと言える。

2004年頃から、コンピュータのハードウェアリソースを論理的なリソースとして管理するためのオペレーティングシステムの仮想化技術の研究開発を開始、その成果をLinuxカーネルのストレージ領域に適用し、機能開発に大きく貢献した。ブロックSCSIドライバの開発責任者への任命、カーネル開発の方向性に大きな影響を与える重要な世界的な会議Linux Kernel Summitへの招待など、その功績は開発者コミュニティから高く評価された。

2008年に、コンピューティングとストレージの仮想化技術を統合した基盤を実現するために、複数のコンピュータの内蔵ストレージをネットワークを介して1つの論理的なストレージに合成する技術をOSSとして公開した。グローバルに広く活用されるソフトウェアになっただけでなく、同様のコンセプトを実現するOSSや複数の商用システムが登場するなど、業界に大きな影響を与えた。

2011年から、Software Defined Network (SDN) と呼ばれる機能・性能を柔軟に変化させることができるネットワークを実現するための研究開発を開始した。2011年に、高度な制御が可能な新しい制御プロトコルをサポートしたネットワーク装置を管理するためのソフトウェアフレームワーク、2014年には、成長を続けるインターネットやデータセンタの現在の規模に対応できる経路制御ソフトウェアをOSSとして公開した。ネットワーク装置ベンダやソフトウェアベンダも巻き込み、その開発を主導し、SDNの実現に大きく貢献している。これらのOSSは、様々なOSSプロジェクトからアメリカ国家安全保障局まで、多くの組織で利用されている。

高柳健次郎業績賞

「波面補償を用いたホログラム記録試作ドライブの開発」



星沢 拓 氏

(株式会社 日立製作所 研究開発グループ テクノロジーイノベーション統括本部 部長 1970年生)

[学歴] 1995年 3月 東京理科大学 理工学研究科 情報科学専攻 修士課程修了
[職歴] 1995年 4月 株式会社日立製作所入社 マルチメディアシステム開発本部
2007年10月 日立アメリカLTD. 出向
2010年 1月 株式会社日立製作所 コンシューマエレクトロニクス研究所 主任研究員
2017年 4月 株式会社日立製作所 研究開発グループ テクノロジーイノベーション統括本部 部長

● 主な受賞等

2010年11月 International Workshop on Holographic Memories & Display Best Paper Award
2016年 2月 一般社団法人情報処理学会 国際規格開発賞
2016年12月 映像情報メディア学会 優秀研究発表賞



石井 紀彦 氏

(日本放送協会 放送技術研究所 新機能デバイス研究部 上級研究員 1969年生)

[学歴] 2008年 3月 慶應義塾大学大学院 理工学研究科 博士課程修了
[職歴] 1993年 4月 日本放送協会入局 放送技術研究所
2012年 6月 日本放送協会 放送技術研究所 チーフエンジニア
2015年 6月 日本放送協会 放送技術研究所 上級研究員

● 主な受賞等

2008年 6月 映像情報メディア学会 フロンティア賞

〈主な業績内容〉

2018年の4K8Kスーパーハイビジョンの実用放送開始やビッグデータの利用など近年、データ保存に必要な容量は指数関数的に増加している。これら映像データや解析用データは、将来にわたり必要不可欠であるため、大容量のデータを高速にかつ長期保存できる記録装置が必要である。星沢拓氏と石井紀彦氏はこの要求に応える次世代の光メモリーであるホログラフィックメモリーの研究開発を主導的に推進し、試作ドライブを完成させた。

非接触で長期保存可能な光メモリーでの大容量化手法では、多層記録による大容量化が検討されているが、記録層間の干渉により4層程度の多層化が限度と見積もられており、大幅な大容量化は困難である。また、1つのレーザービームで1つのビットだけを記録再生する、いわゆるビットバイビット方式であるため、高速化にも限界がある。

一方、これらの課題を打破できる光メモリーとして、ホログラフィックメモリーが有望視されている。ホログラフィックメモリーは記録データを記録媒体の厚み方向にわたり記録し、かつデータの重ね書き(角度多重記録)ができるため大容量化が見込める。また、数メガバイトの2次元データ(ページデータと呼ぶ)を一括で瞬時に記録再生するため、データの高速転送も可能である。さらに、記録媒体として感光性樹脂を用いることで、50年以上の保存寿命を期待できる。これらの特徴によりホログラフィックメモリーへの期待は大きく、実用化に向けた研究が盛んになされてきたが、これまでの光メモリーとは記録再生の原理が大きく異なるため課題も多く、テラバイト級の大容量かつ高速記録可能な実機としてドライブ開発に成功したグループはない。

両氏は、以下に述べる複数のコア技術を開発・採用することで、テラバイト級のデータ記録可能なホログラフィックメモリーの試作ドライブを完成させた。

星沢拓氏はRLL(Run Length Limited)高密度記録とRLLターボ復号による大容量化、さらに参照光角度サーボによる高速化を進めた。記録媒体中のホログラム寸法を小さくするため、RLL変調を用い、ホログラム寸法を従来の1/2とし、さらに誤り訂正能力に優れたターボ復号の一部とすることで、高密度化によるSNR(Signal to Noise Ratio)の劣化を補う技術を開発した。これにより容量2テラバイトに必要な1平方インチ当たり2.4テラビットの記録密度での記録再生を実現した。また、角度多重方式のホログラフィックメモリーでは、高SNRでの再生を行なうために、参照光入射角の制御を短時間で高精度に行なう必要がある。そこで参照光入射角と最適角との相対誤差を光学的に検出し、0.003度以下に角度調整するサーボ技術を開発し、秒速1ギガビットでの記録再生を実現する目処を得た。

石井紀彦氏は波面補償技術による再生SNR向上と8K映像の記録再生を実現した。ホログラム記録媒体では、微小な体積変化を生じ、良好な再生光を得られない。この現象を補償するため、波面補償を検討した。シミュレーションから効果を推定し、実験から誤り率を60%程度低減できることが分かった。これにより波面補償技術の有用性を確認できた。さらに、これらの技術を合わせたドライブを使用して、85Mbpsの8Kスーパーハイビジョン圧縮映像を記録し、リアルタイムで再生することにも成功した。

今回開発した技術により、保存すべきデータ量の増加という課題に対して大きなソリューションを提供するとともに、本装置の開発は放送業界、映像関連産業、IT関連企業などの発展に寄与できるため、幅広い分野において大きな波及効果も期待される。

研究奨励賞



● 研究課題

「大規模合意形成支援のためのマルチエージェント 自動交渉に関する研究」

藤田 桂英 氏

(東京農工大学 大学院工学研究院 先端情報科学部門 准教授)

〈研究概要〉 人工知能の一分野であるマルチエージェント自動交渉に関する研究成果を国内外に積極的に発表し、若手研究者として卓越した成果をあげた。マルチエージェント自動交渉とは、複数の合理的なエージェント(人工知能)が対立した場合に自動的に交渉し、協調を行うための研究である。これまでに新規性が高く現実的な設定である非線形効用モデルに着目した自動交渉プロトコルを多数開発しており、これらの成果は著名な学術雑誌や国際会議に採択されている。また、自動交渉に関する国際ワークショップや国際競技会の運営も主体的に行った。

近年は、マルチエージェント技術に基づく大規模合意形成支援システムの創成に関するプロジェクトに関わっており、ネット上の大規模合意形成技術に関する研究業績をあげている。本プロジェクトでは炎上などのネット上の大規模な議論特有の現象を防ぎながらより良い合意形成を支援し、参加者の意図をハーモニアスに取り込み、効果的に合意形成支援するエージェント技術の確立を目指している。研究グループ内では、他分野の研究者と協調して、学術的な成果を社会実装や社会実験として実現しようと尽力しており、国内外の学会での受賞など学術的に大きく貢献している。今後、それらの技術の社会実装や社会実験へもつながっており、新しい人工知能の意思決定プラットフォームとなることが期待される。



● 研究課題

「複数の指向性画像を記録・表示する ボリュームディスプレイ」

平山 竜士 氏

(千葉大学 大学院工学研究院 日本学術振興会特別研究員(PD))

〈研究概要〉 通常の2次元ディスプレイが持ち得ない情報を有する次世代型ディスプレイとして、ボリューム(体積型)ディスプレイに着目し、その特殊な3次元構造を活かした新たな映像表示手法の実現を目指して研究を行っている。その一つが、複数の2次元画像を3次元構造体に組み込む独自アルゴリズムである。このアルゴリズムで作成した3次元構造体は、複数視点に対して独立な情報を同時に伝えられるため、特別な装置を受信者が用意することなく、各個人の需要に合わせた情報をその人だけに伝達する技術を確立できる。芸術やエンターテインメントの他、デジタルサイネージを含む広告技術、安心・安全を提供するセキュリティ分野など、様々な分野で社会に新たな付加価値をもたらす次世代情報伝達システムを実現し得る技術である。

そのような応用を実現するために、基盤となる3次元構造体の設計アルゴリズム開発やその改善、表示画像のフルカラー映像化に向けた動的ボリュームディスプレイ手法の開発などに取り組んでいる。中でも申請者が提案するフォトクロミック材料(光照射によって発色・消色を制御できる分子)に基づく光空間アドレス手法は、3次元空間上の任意の場所が着色可能となるため、世界初のフルカラー光制御ボリュームディスプレイとしての応用が期待される。現在はシステムの大型化に向けた拡張性の向上や、光制御映像表示システムの構築に取り組んでいる。

研究奨励賞



● 研究課題

「オンデマンドパターニングによる制御回路不要な 新規表示デバイス開発」

森本 勝大 氏

(富山大学 大学院理工学研究部(工学) 特命助教)

〈研究概要〉 近年、盛んに研究開発が行われ普及段階にある有機EL (OLED) デバイスは、軽量性・フレキシブル性・薄型・透明性・高コントラストなど多くの付加価値を有する次世代デバイスとして注目されており、次世代照明や半導体レーザーなど幅広い用途への応用も期待されている。しかしながら、OLEDの駆動方法は従来ディスプレイと変わっておらず、極小サイズのOLED画素毎に制御しているためデバイス駆動には複数のOLED画素や制御回路を必要としている。

本研究では単一画素中にオンデマンドな構造変化を誘起することで、発光・未発光領域を任意に作製し制御回路不要な新規表示デバイス開発を目的とする。単一画素発光であるため、表示上「ドット」という概念が存在せず高精細表示デバイスとなり得る。また、構造制御に微細光パターニング技術を用いることで簡便かつ大面積での発光領域制御に挑戦し、今後膨大な消費数が予想される少量多品種型の表示デバイス作製を目指す。発光特性や描画性能は発光/未発光領域の化学物理構造に密接に関係しているため、作製したOLED素子の化学物理構造と光パターニング条件との相関関係を解明すると共に、表示デバイス性能をフィードバックしながら研究を進める。

研究奨励賞 研究成果論文

当財団では、研究奨励賞贈呈者に対して、受贈後の2年間での研究成果について報告をお願いしています。報告された研究成果論文は、当財団のホームページで公開いたします。

本年度は、2014年度贈呈者の研究成果論文をホームページに公開いたしました。

高村 陽太 氏 (東京工業大学大学院 理工学研究科 電子物理工学専攻 助教)

● 研究課題 「垂直磁化MRAM用高スピン偏極率フルホイスラー合金薄膜の開発」

片山 昇 氏 (東京理科大学 理工学部 電気電子情報工学科 助教)

● 研究課題 「静電噴霧法による固体高分子形燃料電池触媒層の微細構造制御」

榎本 洸一郎 氏 (新潟大学大学院 自然科学研究科 電気情報工学専攻 助教)

● 研究課題 「海洋環境における生態理解のための画像処理技術」

ホームページ <http://takayanagi.or.jp> 研究奨励賞 をご参照ください。

科学放送高柳賞 最優秀賞

番組名 「カムイの鳥の軌跡 ～オオジシギ2つの物語～」

●放送局:北海道テレビ放送株式会社 ●放送日:2017年8月14日(45分間)



アイヌの人々は動物や自然現象に宿る「カムイ」を敬い、多くの神話を語り継いできました。「チピヤクカムイ」はシギの神様。シギの神様はある日、オオジシギに姿を変えて地上に舞い降り、そして人間の国の美しい光景に一目惚れしてしまいます…

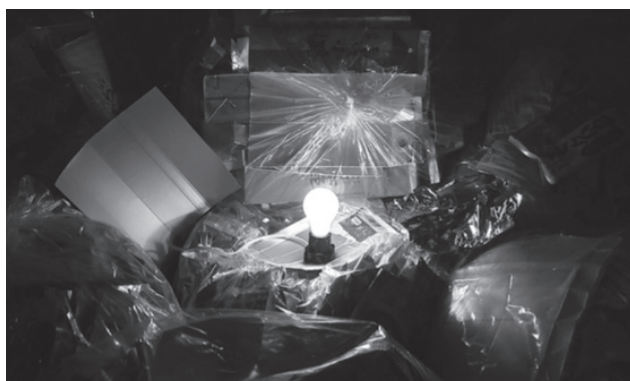
オオジシギは小さな渡り鳥です。夏は主に北海道で繁殖し、冬はオーストラリアで過ごしますが、どのように渡っているのかわかっていません。2016年夏、日・豪の鳥類研究者が小型の衛星発信機をオオジシギに装着させ、世界で初めて渡りのルートを追跡する調査に臨みました。日本からオーストラリアに向かってどんな旅をしているのか?GPSのデータはといったどのような軌跡をたどるのか?調査で

明らかになることすべてが、世界初の発見となりました。番組では独自にオオジシギの位置データと当時の気象状況を重ね合わせ「いつ、どのタイミングで渡りを始めるのか」という謎にも、仮説を導き出しています。アイヌの伝説でオオジシギが一目惚れした人間の世界と、日豪の研究者が解明していく渡りのルート。錯綜する2つの世界が重なったとき、一つのメッセージが浮かび上がります。

科学放送高柳賞 優秀賞

番組名 「ゴミノヒカリ～未来を照らすアルミゴミ発電～」

●放送局:株式会社チューリップテレビ ●放送日:2017年5月24日(49分間)



飲料パックやカップ麺のふたの裏側を見ると、銀色に光っている部分があります。これはアルミ。こうしたアルミの付いたゴミは、リサイクルが難しく、ほとんどが焼却や埋め立て処分されています。その量は家庭ゴミの実に20%にも達するといいます。

こうしたゴミをなんとかしたいと立ち上がったのが、高岡の運送会社の元事務職・水木伸明さんです。水木さんは、家庭ゴミからアルミを取り出し、そのアルミから水素を発生させて、電気に変える世界初の発電プラントを開発しました。そして、このプラントが、来るべき水素社会の切り札として注目されます。なぜかという、水素社会を実現するための課題といわれる水素の運搬と貯蔵が、アルミなら簡単で安全にできるからです。

しかし、そんな矢先、水木さんを病魔が襲いました。骨髄の病で、医師からは死の恐れもあるといわれました。それでも水木さんは、新たな装置の開発を続けます。目指したのは、災害時に電源がなくても発電できる小型の緊急発電装置です。『地域でアルミゴミを集め、アルミで保管し、緊急時に電気がなくても、発電できるようになる…』そんな新たなリサイクル社会の可能性を秘めた装置が、日本の未来を照らします。

科学放送高柳賞 優秀賞

番組名 「村山斉の宇宙をめぐる大冒険」

●放送局:日本放送協会 ●放送日:2017年1月6日(59分間)



「宇宙はどう始まったのか？」

「なぜ我々は存在するのか？」

「宇宙はこれからどうなるのか？」

この究極の謎に迫るのが、世界の第一線で活躍する素粒子物理学者・村山斉さん。36歳でカリフォルニア大学バークレー校の教授となり、東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構の機構長を兼任する村山さんが、多忙なスケジュールの合間を縫ってNHKの撮影に協力することになった。ブラジルのレンソイス・マラニェンセス国立公園や、タイのランタン祭りなど、宇宙をひもとくヒントが隠された世界各地の絶景地を訪ね、情熱的でスケール感のある例え話で、子どもでも分かる“最新宇宙論”を展開する。さらに、ピザ屋への弟子入りや、室内スカイダイビング施設などで教授みずから体を張った数々の実験を敢行。

また、2人のノーベル賞受賞者・ビッグバンの証拠を見つけたウィルソン博士と、宇宙の加速膨張を発見したパールムッター博士との対談も行う。CGを駆使した壮大なスケールの映像も交え、宇宙最大の謎に迫っていく。

■ 放送期間/2016年9月1日~2017年8月31日 ■ 応募放送局/16局 ■ 応募番組数/20番組

入賞番組の一般公開

本年度の入賞番組は、制作局の了解の上、公益財団法人放送番組センターが運営する、放送番組専門の公開施設「放送ライブラリー」において、後日、一般に無料で公開することにしております。

◆放送番組専門の公開施設「放送ライブラリー」のご案内

- 場 所 横浜情報文化センター 8F
神奈川県横浜市中区日本大通11 TEL.045-222-2828
(交通アクセス)みなとみらい線「日本大通り駅」3番出口(情報文化センター口)直結
JR根岸線・横浜市営地下鉄「関内駅」徒歩10分
- 開館時間 10時~17時 (視聴受付は、閉館30分前まで)
- 休 館 日 毎週月曜日(祝日・振替休日の場合は、次の平日)、年未年始

公益財団法人番組放送センターの「放送ライブラリー」は、放送法に基づく、わが国唯一の放送番組専門のアーカイブ施設であり、NHKと民放のテレビ、ラジオ番組とCMを公開しています。

詳細は、ホームページ <http://www.bpcj.or.jp/> をご参照ください。

歴代受賞一覧

高柳健次郎賞

研究奨励賞

科学放送高柳賞

■ 高柳健次郎賞・受賞者一覧 (1985年度～2012年度 高柳記念賞)

年度	氏名	受賞時の所属・職名	
2016年	内田 龍男	東北大学	名誉教授
2015年	宮原 秀夫	大阪大学	元総長
2014年	大場 吉延	日本放送協会	元 理事
2013年	白井 克彦	放送大学学園	理事長
2012年	安田 浩	東京電機大学 未来科学研究科	委員長・教授
2011年	泉 武博	日本放送協会 放送技術研究所	元 所長
2010年	青木 利晴	株式会社NTTデータ	元 社長
2009年	相磯 秀夫	東京工科大学	理事・前学長
2008年	金子 尚志	日本電気株式会社	名誉顧問
2007年	長谷川 豊明	日本放送協会	元 専務理事・技師長
2006年	辻井 重男	情報セキュリティ大学院大学	学長
2005年	立川 敬二	独立行政法人 宇宙航空研究開発機構	理事長
2004年	安田 靖彦	早稲田大学 理工学部	教授
2003年	嵩 忠雄	大阪大学	名誉教授
2002年	中村 好郎	日本放送協会	元 副会長
2001年	中原 恒雄	住友電気工業株式会社	特別技術顧問
2000年	長尾 真	京都大学	総長
1999年	林 宏三	日本放送協会 放送科学基礎研究所	元 所長
1998年	熊谷 信昭	大阪大学	元総長
1997年	斎藤 成文	東京大学	名誉教授
1996年	藤尾 孝	大阪工業大学	客員教授
1995年	岩崎 俊一	東北工業大学	学長
1994年	野村 達治	日本放送協会	元 専務理事・技師長
1993年	植之原 道行	日本電気株式会社	特別顧問
1992年	岡村 總吾	東京電機大学	学長
1991年	鈴木 桂二	長岡技術科学大学	名誉教授
1990年	宇都宮 敏男	東京理科大学 理工学部	教授
1989年	大島 信太郎	国際電信電話株式会社	元 副社長
1988年	瀧 保夫	東京理科大学 基礎工学部	学部長
1987年	平山 博	早稲田大学 理工学部	教授
1986年	尾上 守夫	株式会社 リコー	専務取締役
1985年	坂井 利之	京都大学 工学部	教授
	樋渡 涓二	筑波大学 電子・情報系	教授

■ 財団設立からの累計受賞者34名

■ 高柳健次郎業績賞・受賞者一覧 (1986年度～2012年度 高柳記念奨励賞)

年度	氏名	受賞時の所属・職名
2016年	稲見昌彦 島本洋	東京大学 先端科学技術研究センター 日本放送協会 放送技術研究所 テレビ方式研究部 教授 上級研究員
2015年	柏野邦夫 西田幸博	日本電信電話株式会社 コミュニケーション科学基礎研究所 日本放送協会 放送技術研究所 テレビ方式研究部 上席特別研究員 上席研究員
2014年	田中祥次 松尾義博	日本放送協会 放送技術研究所 伝送システム研究部 日本電気株式会社 メディアインテリジェンス研究所 上級研究員 主幹研究員
2013年	松村欣司 高橋敏	日本放送協会 放送技術研究所 日本電信電話株式会社 メディアインテリジェンス研究所 主任研究員 主席研究員
2012年	今井亨久 山田悦久	日本放送協会 技術局 計画部 三菱電機株式会社 情報技術総合研究所 映像情報処理技術部 副部長 主席技師長
2011年	川村龍太郎 角尾幸保	日本電信電話株式会社 未来ねっと研究所 日本電気株式会社 情報・メディアプロセッシング研究所 メディアイノベーション研究部長 主席研究員
2010年	岩館祐一 長沼次郎	日本放送協会 放送技術研究所 テレビ方式研究部 NTTエレクトロニクス株式会社 デジタル映像事業本部 主任研究員 主事
2009年	藤井哲郎 白川千洋 細川地潮	東京都市大学 環境情報学部 NTTスマートコネクスト株式会社 出光興産株式会社 教授 取締役 電子材料開発C
2008年	丸山裕孝 江藤剛治 中村淳一	日本放送協会 放送技術研究所 近畿大学 理工学部 アプティナ・ジャパン株式会社 主任研究員 教授 代表取締役
2007年	川添雄彦	日本電信電話株式会社 NTTサイバーソリューション研究所 主幹研究員
2006年	金澤勝	日本放送協会 放送技術研究所 主任研究員
2005年	八島由幸	日本電信電話株式会社 NTTサイバースペース研究所 主幹研究員
2004年	小池康博	慶應義塾大学 理工学部 教授
2003年	佐々木誠	日本放送協会 放送技術研究所 デジタルネットワーク部長
2002年	大塚作一	株式会社NTTデータ 技術開発本部 コンテンツ管理技術グループ・部長
2001年	榎啓一 松永真理 土井利忠	株式会社NTTドコモ iモード事業本部 松永真理事務所 ソニー株式会社 取締役 本部長 代表取締役 執行役員上席常務
2000年	加藤久和 村瀬和洋	日本放送協会 技術局開発センター 日本電信電話株式会社 コミュニケーション科学基礎研究所 チーフエンジニア メディア情報研究部 グリダー
1999年	松山駿介 中村修二	富士通日立プラズマディスプレイ株式会社 日亜化学工業株式会社 専務取締役 開発部 主幹研究員
1998年	小野定康 斉藤康敬	日本電信電話株式会社 光ネットワークシステム研究所 キャノン株式会社 B製品事業本部 小野特別研究室 室長 常務取締役 本部長
1997年	篠原紘一 村上宏	松下電器産業株式会社 日本放送協会 放送技術研究所 AVC商品開発研究所 主担当 表示・光デバイス 部長
1996年	森田健一章	株式会社東芝 オリンパス光学工業株式会社 常務取締役 取締役 第3事業部長
1995年	清野水村宏 野村武紀	日本ビクター株式会社 TDK株式会社 取締役 ビデオ事業本部長 基礎材料研究所 部長
1994年	西脇秀則 鷲塚則諫	三洋電機株式会社 ニューマテリアル研究所 シャープ株式会社 液晶事業本部 太陽電池研究室長 専務取締役 本部長
1993年	萩本和男 吉田真澄	日本電信電話株式会社 伝送システム研究所 株式会社富士通研究所 マルチメディア研究所 光通信研究部 主幹研究員 テクノロジー研究部門長付
1992年	谷岡健吉 土屋吉裕	日本放送協会 放送技術研究所 浜松ホトニクス株式会社 中央研究所 映像デバイス研究部主任研究員 所長代理
1991年	木目健治朗 藤原淑男	三菱電機株式会社 電子商品開発研究所 ソニー株式会社 ビジネス&プロフェッショナル開発本部 開発第3部 第4グループマネージャー 本部長
1990年	秋山郁男 藤原慎司	日本電気株式会社 映像開発本部 松下電器産業株式会社 情報機器研究所 第一開発部・課長 入力デバイス開発室長
1989年	江藤良純 大島正毅	株式会社日立製作所 中央研究所 工業技術院電子技術総合研究所 第5部 主管研究員 知能システム部 視覚情報研究室長
1988年	村上仁己 廣田昭	国際電信電話株式会社 上福岡研究所 日本ビクター株式会社 画像通信研究室長 取締役ビデオ研究所長
1987年	野村龍男 木戸出正継	日本放送協会 放送技術研究所 株式会社東芝 総合研究所 主任研究員 技術管理部 課長

■ 財団設立からの累計受賞者(58件)82名

研究奨励賞・受賞者一覧 (1984年度～2012年度 研究助成)

年度	氏名	受賞時の所属先	年度	氏名	受賞時の所属先		
第33回 2016年	片宗優貴 金子健太郎 松本圭介	九州工業大学 若手研究者フロンティアアカデミー 京都大学 大学院工学研究科 愛媛大学 大学院理工学研究科	特任助教 助教 助教	第15回 1998年	横矢直和 和田智志 深見正	奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 東京農工大学 工学部 応用化学科 金沢工業大学 工学部 電気・電子系	教授 助手 助教
第32回 2015年	安在大祐 久保亮吾 真部雄介	名古屋工業大学大学院 工学研究科 慶應義塾大学 理工学部 電子工学科 千葉工業大学 情報科学部	助教 専任講師 准教授	第14回 1997年	笹尾勤 鳥養映子 浅田雅洋	九州工業大学 情報工学部 電子情報工学科 山梨大学 工学部 電子情報工学科 東京工業大学 工学部 電気電子工学科	教授 助教授 助教授
第31回 2014年	榎本洸一郎 片山昇 高村陽太	新潟大学大学院 自然科学研究科 東京理科大学 理工学部 電気電子情報工学科 東京工業大学大学院 理工学研究科	助教 助教 助教	第13回 1996年	宮崎正弘 白井肇 荒川薫	新潟大学 工学部 情報工学科 埼玉大学 工学部 機能材料工学科 明治大学 理工学部 情報科学科	教授 助教授 助教授
第30回 2013年	安井隆雄 周大江 西祐希	名古屋大学 工学研究科 早稲田大学大学院 情報生産システム研究科 金沢工業大学 光電相互変換デバイス研究開発センター	助教 助教 研究員	第12回 1995年	荒川泰彦 山本節夫 奥村次徳 小谷一孔	東京大学 生産技術研究所 山口大学 工学部 機能材料工学科 東京都立大学 工学部 北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科	教授 助教授 教授 助教授
第29回 2012年	延兼啓純 田中一晶 木村貴幸	北海道大学大学院 理学研究院物理学部門 大阪大学 工学研究科 日本工業大学 工学部 電気電子工学科	助教 特任助教 助教	第11回 1994年	武藤佳恭 林真至 森迫昭光 酒井士郎	慶応義塾大学 環境情報学部 神戸大学 工学部 電気電子工学科 信州大学 工学部 徳島大学 工学部 電気電子工学科	助教授 助教授 助教授 教授
第28回 2011年	村岡貴博 井上亮文 鈴木健仁	東北大学 多元物質科学研究所 東京工科大学 コンピュータサイエンス学部 茨城大学 工学部 電気電子工学科	助教 講師 助教	第10回 1993年	山本真司 若林真一 田中国昭 平井有三	豊橋技術科学大学 工学部 知識情報工学系 広島大学 工学部 第二類 電気系 千葉大学 工学部 電気電子工学科 筑波大学 電子・情報工学系	教授 助教授 教授 教授
第27回 2010年	石淵久生 山口実靖 宮崎大介	大阪府立大学 大学院工学研究科 工学院大学 情報通信工学科 大阪市立大学 大学院工学研究科	教授 准教授 准教授	第9回 1992年	蛭原健治 篠田庄司 田坂修二 松田甚一	熊本大学 工学部 電子情報工学科 中央大学 理工学部 名古屋工業大学 工学部 電気情報工学科 長岡技術科学大学 工学部 電気系	教授 教授 教授 教授
第26回 2009年	長谷川浩 海老原聡 野村孝徳	名古屋大学 大学院工学研究科 大阪電気通信大学 工学部 和歌山大学 システム工学部 メカトロニクス学科	准教授 准教授 教授	第8回 1991年	新井宏之 白石和男 半谷精一郎 渡辺治	横浜国立大学 工学部 電子情報科学科 宇都宮大学 工学部 電気電子工学科 東京理科大学 工学部 電気工学科 東京工業大学 工学部 情報工学科	助教授 助教授 助教授 助教授
第25回 2008年	水柿義直 多田和也 石塚洋一	電気通信大学 電気通信学部 兵庫県立大学 大学院工学研究科 長崎大学 工学部 電気電子工学科	准教授 准教授 准教授	第7回 1990年	伊藤彰義 岡野光治 橘邦英 根本幾	日本大学 理工学部 電子工学科 東京大学 工学部 物理工学科 京都工芸繊維大学 工学部 電子情報工学科 東京電機大学 理工学部	教授 教授 教授 助教授
第24回 2007年	谷井孝至 白谷正治 岡野好伸	早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 九州大学 システム情報科学研究院 武蔵工業大学 知識工学部 ネットワーク工学科	准教授 教授 准教授	第6回 1989年	加藤誠巳 小松尚久 寅市和男 三橋涉	上智大学 理工学部 電気・電子工学科 早稲田大学 理工学部 電子通信学科 筑波大学 電子・情報工学系 電気通信大学 電子情報科学科	教授 講師 教授 助手
第23回 2006年	渡邊慎也	青山学院大学 理工学部 電気電子工学科	助手	第5回 1988年	浅田邦博 吉田雄二 小柴正則 大津元一	東京大学 工学部 電子工学科 名古屋大学 工学部 情報工学科 北海道大学 工学部 電子工学科 東京工業大学 総合理工学研究科	助教授 教授 教授 助教授
第22回 2005年	中川清 磯村雅夫	香川大学 工学部 信頼性情報システム工学科 東海大学 電子情報学部 電気電子工学科	教授 助教授	第4回 1987年	美濃導彦 白鳥則郎 山田実 笹瀬巖	京都大学 工学部 高度情報開発実験施設 東北大学 工学部 電気通信研究所 金沢大学 工学部 電気情報工学科 慶応義塾大学 理工学部 電気電気工学科	助手 助教授 教授 助手
第21回 2004年	棟安実治 鵜殿治彦	関西大学 工学部 電子工学科 茨城大学 工学部 電気電子工学科	助教授 助教授	第3回 1986年	小長井誠 西川博昭 大西公平	東京工業大学 工学部 電気・電子工学科 大阪大学 工学部 電子工学科 慶応義塾大学 理工学部 電気工学科	助教授 助手 専任講師
第20回 2003年	出口博之 井須尚紀	同志社大学 工学部 電子工学科 三重大学 工学部	助教授 教授	第2回 1985年	坂内正夫 広田修 天野英晴	東京大学 生産技術研究所 相模工業大学 情報工学科 慶応義塾大学 理工学部 電気工学科	助教授 助教授 助手
第19回 2002年	六車仁志 木村宏	芝浦工業大学 工学部 電子工学科 岐阜大学 工学部 電気電子工学科	助教授 助教授	第1回 1984年	斎藤省吾 榎栞	九州大学 総合理工学研究科 東京大学 生産技術研究所	教授 助教授
第18回 2001年	寺内衛 西村俊和 入江聡 小林春夫	広島市立大学 情報科学部 情報工学科 立命館大学 理工学部 情報学科 福井大学 工学部 材料開発工学科 群馬大学 工学部 電気電子工学科	助教授 助教授 助手 助教授				
第17回 2000年	渡邊高志 長田康敬 岸田悟 岩月正見	東北大学 大学院 工学研究科 琉球大学 工学部 電気電子工学科 鳥取大学 工学部 電気電子工学科 法政大学 工学部 電気電子工学科	講師 助教授 助教授 助教授				
第16回 1999年	大森裕 和田修巳 山田功	大阪大学 大学院 工学研究科 岡山大学 工学部 電気電子工学科 山形大学 工学部 電子情報工学科	助教授 助教授 助手				

財団設立からの累計受賞者(73大学106名) / 累計助成金額 20,360万円

科学放送高柳賞 受賞番組並びに放送局

(第28回～第43回 科学放送高柳記念賞/第44回科学放送 高柳健次郎賞)

回数/年度	受賞名	番組名	放送局名
47回 2016年	最優秀賞	NHKスペシャル「ミラクルポディー 世界最強の人魚たち」	日本放送協会
	優秀賞	カンブリア宮殿 「世界が驚いた新素材革命!人口クモ糸&石から作る"魔法の紙"」	株式会社テレビ東京
	優秀賞	「野生のいのち 死の連鎖」	北海道テレビ放送株式会社
46回 2015年	最優秀賞	SBS防災特別番組「富士山鳴動すー火の山の危機と予知ー」	静岡放送株式会社
	優秀賞	「トキ 新世界を生きる」	株式会社新潟放送
	優秀賞	NHKスペシャル「腸内フローラ～解明!驚異の細菌パワー～」	日本放送協会
45回 2014年	最優秀賞	NHKスペシャル「アルツハイマー病をくい止める!」	日本放送協会
	優秀賞	テレビ東京系列「カンブリア宮殿」ノーベル賞御用達!“光の技術を極める超絶企業”	株式会社テレビ東京
	優秀賞	TOYAから明日へ!「氷の島のメッセージ」～グリーンランド温暖化の最前線から～	北海道テレビ放送株式会社
44回 2013年	高柳健次郎賞	未来世紀ジパング～"アルマ展望台"プロジェクト	株式会社テレビ東京
	奨励賞	NHKスペシャル「世界初撮影! 深海の巨大イカ」	日本放送協会
	奨励賞	生命38億年スペシャル・最新遺伝子ミステリー「人間とは何だ…!？」	株式会社TBSテレビ
43回 2012年	高柳記念賞	NHKスペシャル「宇宙の渚」第1集・謎の閃光 スプライト	日本放送協会
	奨励賞	KBSふるさとスペシャル「未来を回せ～富山発・小水力発電の可能性～」	北日本放送株式会社
	奨励賞	「風を集めて"レンズ風車"未来への挑戦」	RKB毎日放送株式会社
42回 2011年	高柳記念賞	「クニマスは生きていた!」	株式会社毎日放送
	奨励賞	コズミック フロント ～発見! 驚異の大宇宙～「迫りくる太陽の異変」	日本放送協会
	奨励賞	チャンネル4「三兄弟が挑んだ命の鼓動～国産初・植え込型補助人工心臓開発物語～」	株式会社テレビ信州
41回 2010年	高柳記念賞	「神の鳥からの警告」	富山テレビ放送株式会社
	奨励賞	NHKスペシャル「ハッブル宇宙望遠鏡 宇宙の始まりに挑む」	日本放送協会
	企画賞	「人類よ 宇宙人になれ 立花隆VS小学生」	日本放送協会
40回 2009年	企画賞	「ノンフィクションW」街が踊る!ビルが笑う!デジタルサイネージで変わる世界	株式会社WOWOW
	高柳記念賞	「クエスト～探求者たち～ 宇宙エレベーターで宇宙へ! 青木義男教授の挑戦」	株式会社WOWOW
	奨励賞	「富山湾・あいの海」	富山テレビ放送株式会社
	奨励賞	NHKスペシャル「病の起源 第4集 読字障害～文字が生んだ病～」	日本放送協会
39回 2008年	企画賞	「ニッポンの恐竜はどこから来たのか」	福井放送株式会社
	高柳記念賞	素敵な宇宙船地球号「世界遺産の光と影 Vol.9～屋久島のいのちの森～」	株式会社テレビ朝日
	奨励賞	「めんたいキッズ08～こどもたちが番組作りに挑戦～」	株式会社福岡放送
	奨励賞	NHKスペシャル「眠れる再生力をよびませ～脳梗塞・心筋梗塞治療への挑戦～」	日本放送協会
38回 2007年	企画賞	「探Qサイエンス」	株式会社テレビ西日本
	高柳記念賞	NHKスペシャル「赤ちゃん 成長の不思議な道のり」	日本放送協会
	奨励賞	「因島造船物語 撓鉄と生きる人々」	株式会社テレビ新広島
	奨励賞	「豊かな干潟～坂田明が見た豊前海の神秘～」	大分朝日放送株式会社
37回 2006年	企画賞	素敵な宇宙船地球号「CO2スリム大作戦」	株式会社テレビ朝日
	高柳記念賞	「カナリヤの子供たち～検証・化学物質過敏症～」	日本テレビ放送網株式会社
	奨励賞	ガイアの夜明け「最先端! オーダーメイド医療～あなただけの治療法選びます～」	株式会社テレビ東京
	奨励賞	「SBSスペシャル 秋津の岸辺」	静岡放送株式会社
企画賞	素敵な宇宙船地球号 シリーズ ミクロの生命体「微生物ハンターが人類を救う」	株式会社テレビ朝日	

回数/年度	高柳記念賞	高柳記念奨励賞	高柳記念企画賞
36回 2005年	中京テレビ放送株式会社 番組名 「感染症の世紀～ウイルスハンター～人類の終わりなき闘い」	北海道テレビ放送株式会社 株式会社テレビ東京	日本放送協会
35回 2004年	日本放送協会 番組名 地球ふしぎ大自然「幻想! 夜に草原が輝く ブラジル光るアリ塚の謎」	北陸放送株式会社 テレビ愛知株式会社	株式会社TBSテレビ
34回 2003年	テレビ愛知株式会社 番組名 「よみがえれ三河湾!～スナメリのいる海～」	株式会社テレビ東京	株式会社テレビ朝日
33回 2002年	南海放送株式会社 番組名 「クマガイ草ー小さな村の小さな奇跡の物語」	テレビ愛知株式会社 株式会社サガテレビ	日本放送協会

第32回2001年以前の受賞番組・放送局は、ホームページ(<http://takayanagi.or.jp>) 科学放送高柳賞をご参照ください。

■ 第1回～第27回 科学放送振興協会 主催 (うち、第16回～第27回 高柳記念財団 後援)/ 第28回～ 高柳記念財団・高柳健次郎財団 主催

■ 役員名簿

理事	末松 安晴 (非常勤)	理事長 東京工業大学栄誉教授
	羽鳥 光俊 (非常勤)	東京大学名誉教授 国立情報学研究所名誉教授
	松崎 淳嗣 (非常勤)	株式会社国際技術顧問事務所 代表取締役
	児野 昭彦 (非常勤)	日本放送協会 専務理事・技師長
	篠原 弘道 (非常勤)	日本電信電話株式会社 代表取締役副社長
	坂井 勝則 (非常勤)	専務理事
	鶴田 雅彦 (常勤)	事務局長
評議員	下邨 昭三 (非常勤)	元科学技術庁 事務次官
	相磯 秀夫 (非常勤)	東京工科大学 理事・名誉教授 慶應義塾大学名誉教授
	餌取 章男 (非常勤)	科学ジャーナリスト
	藤本 正熙 (非常勤)	一般社団法人日本オーディオ協会 顧問
	廣田 昭 (非常勤)	元日本ビクター株式会社 取締役・ビデオ研究所長
	井上 勇三 (非常勤)	株式会社東京放送ホールディングス 社長室顧問
	吉野 武彦 (非常勤)	元日本放送協会 専務理事・技師長
	桂 靖雄 (非常勤)	パナソニック株式会社 客員・元代表取締役副社長
	寺崎 明 (非常勤)	アシュリオンジャパン・ホールディングス合同会社 業務執行者 会長
監事	飛田 和男 (非常勤)	元株式会社ネクストジェン 常勤監査役
	並木 康臣 (非常勤)	元日本ビクター株式会社 理事・渉外部長

■ 委員名簿

〈 選考委員会 〉

- ・電子科学技術の分野で独創的な研究に取り組む若い研究者への研究奨励賞の選考
- ・電子科学技術の分野で優れた研究業績により、科学技術並びに産業の発展に貢献された方々の功績に対する高柳健次郎賞・同業績賞の選考

委員長	羽鳥 光俊	東京大学名誉教授 国立情報学研究所名誉教授
委員	後藤 敏	早稲田大学 名誉教授 エジプト日本科学技術大学 副学長
	荒井 滋久	東京工業大学 科学技術創成研究院 未来産業技術研究所 教授
	黒田 徹	日本放送協会 副技師長 放送技術研究所 所長
	川添 雄彦	日本電信電話株式会社 常務理事 サービスイノベーション総合研究所 所長

〈 審査委員会 〉

国内の放送局でテレビ放映された優れた科学放送番組に対する科学放送高柳賞(最優秀賞・優秀賞)の審査

委員長	餌取 章男	科学ジャーナリスト
副委員長	松崎 淳嗣	株式会社国際技術顧問事務所 代表取締役
副委員長	奥野花代子	神奈川県立生命の星・地球博物館 名誉館員
委員	相生 啓子	特定非営利法人日本国際湿地保全連合 顧問
	青木 恒夫	元日本ビクター株式会社 コーポレートコミュニケーション部長
	榎並 和雅	国立大学法人東京工業大学 監事(常勤)
	栗原 祐司	東京国立博物館 総務部長
	竹中 一夫	スカパーJSAT株式会社 顧問
	元村有希子	株式会社毎日新聞社 科学環境部長
	森 健一	東京理科大学MOT大学院 教授
	由利 伸子	有限会社サイテック・コミュニケーションズ 代表取締役

公益財団法人 高柳健次郎財団

〒102-0082 東京都千代田区一番町4番地5 ニューライフ一番町309

TEL: 03-3239-1207 FAX: 03-3262-3028

E-mail: tkinenz@oak.ocn.ne.jp

<http://takayanagi.or.jp>

Kenjiro Takayanagi Foundation

4-5-309, Ichiban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0082 Japan

Tel: +81-3-3239-1207 Fax: +81-3-3262-3028